



岸 高明の市議会だより

事務所 茅ヶ崎市新栄町7-1 岸ビル6F
自宅 茅ヶ崎市本村4-10-8

Tel 0467-89-3807
Fax 0467-89-3806

<http://www.takaaki-kishi.com/>

mail: takaaki_kishi@hotmail.com

二年目の中間折り返し

市議会議員としての任期一期4年間の中間年となる今期、議長や所属する常任委員会が変更となりました。私は、議会運営委員会副委員長、総務常任委員会委員、議会制度検討委員会委員となりました。残された2年間、不況下、今後の市民生活の基盤となる重要な幾つか計画が市で検討されています。後で後悔の内容、しっかりとチェックし改善等を行ってまいります。

● 6月議会から

- ☆ 総額578億6896万3000円の一般会計補正予算を可決しました。
- ☆ 屋外温水プールの建替えに伴い、利用料金を改定しました。
- ☆ ツインウェイヴ自動車駐車を廃止したのに伴い、現在の料金清算システムのリース契約解除のため補償金約204万円を支払います。



行政視察について

★ 会派の視察（7月12日から13日）

<視察テーマ：やる気のある農業者等育成事業>

山形県尾花沢市～人口2万人、面積372km²

～ 雪とスイカと花笠のまち ～

日本三雪の豪雪地帯（飛騨：高山越後：高田）で、冬は出稼ぎの街である。厳しい環境の中で定住環境と農業を如何に育てる苦労と努力を学んだ。

<視察テーマ：PFIによる学校給食センター>

山形県上山市～人口3.7万人、面積241km²

～ 上山温泉 ～

中学での完全給食は山形県が最初である。成長期での個体差に栄養が問題視されるが、体格は他県に比べて優れている。半導体工場のクリーンルームのようなシステム設備で極めて衛生的です。

★次期総合計画と議会

現在、茅ヶ崎市を運営するための計画は、最上位の物から、基本構想(20年)、基本計画(10年)、実施計画(3年)、そして、一年毎の予算となり具体的に事業となります。構想のみを、法律に基づき根本市長の時に議決されました。2011年からは、新たな次期総合計画となりますが、市長は、構想に基本計画も含めて議会議決とする計画です。実効性が担保されるからです。反面、議会制民主主義という点から議会のチェック機構が弱くなる点について問題してきました。

12月議会に上程予定

☆ 自治基本条例

次期総合計画と同様に自治本計画も進行中。

12月議会に上程予定

PFIで運営。ただし、最初の入札業者は倒産し次点との契約という当初に苦労があった。

<金山町は、裏面に報告書を掲載しています>

★議会運営委員会視察（8月5日から7日）

以前には実施していませんでしたが、現在、他市の議会運営を視察しています。今回、常任委員会の所属が変更となり始めて、議運としての視察となりました。北海道の3市を視察しましたが、興味深い話が聞けました。

茅ヶ崎クラブ視察報告書

平成 21年 7月 24日

報告者： 岸 高明

視察日：平成 21年 7月 15日

視察議員： 岸 高明、松島 幹子、水島 誠司 視察都市： 山形県金山町

視察市対応者： 町議会議長 柴田 清正、議会事務局局長下 柴田 一成、産業課長補佐兼商工観光交流課長、滋賀 稔

視察目的： 街並みづくり100年運動

<はじめに>

山形県金山町は山形県の東北部に位置し、東西約 18km・南北約 14km で人口 6700 人の山の地である。金山杉の産地である。一般会計は総額32億円程で地方交付金が 55%を占めている。人口減少、高齢化が進む。街では、セカンドライフに体験住宅を用意し、定住対策を進めている。金山市のパンフレット“金山町通信”の“日本のどこにでもあった小さな町です”が印象的な町(村)。我々の宿泊先となってシューネスハイム金山は、スキー場やキャンプ場などのリゾート施設にある金山町の第3セクターが運営するホテルである。鉄筋コンクリートの施設であるが、地場の杉が多用され町の柱である事が理解できる。“交流”も市の施策のひとつの柱である。

<町並みづくり100年運動>

金山町の街並みづくり100年運動は、茅ヶ崎市でいう所の景観条例とは全く異なり、金山住宅という形式の住宅を普及させる事を柱として点が大きく異なる。

すなわち、金山型住宅は、地元の杉を使い地元の大工が、切妻屋根に白壁、杉の下見板という基本形態で建築した伝統的な住宅である。昭和32年に「住居や環境を清潔にしましょう」との既存景観の美化運動からはじまり、その後の昭和59年の「金山町地域住宅計画」を含む「街並み(景観)100年運動」の新たな景観作りに発展していった。金山住宅建設には、杉と大工という地場産業の育成という面があり、建設に際して助成金が支払われているが、施主は、その数十倍以上を地元の産業に支払っている点から金山町では地場産育成の効果を高く評価している。百年運動の百年という期間は、住宅が新築されるたびに、金山住宅になれば、100年もすると殆どが金山住宅となるという点から百年という期間が定められた。運動の結果、毎年、金山型住宅が増加してきた。しかしながら、最近では金山式住宅の普及が頭打ちである。原因は、町から出稼ぎに行き戻って来てた人など、最近の高気密・高断熱住宅などの要望がありハウスメーカーで建てるケースが増えている。それを阻止するために、現代にマッチした住宅性能でも、外観は金山式住宅であるものを推進し始めている。参考資料として添付した[風景を活かした町づくりを目指して]に詳しく説明されている。

<茅ヶ崎と比較して>

茅ヶ崎市の例のように街の色彩を統一してゆくの、それとも金山町のように、建物の工法に踏み込むのかで景観に対する考え方が全く異なる。金山式住宅の商店の前の、赤い自動販売機や青い袖看板は場違いに感じられた。建築構造まで踏み込むのであれば、街全体の外観にもっと配慮すべきと感じた。地場産業育成の観点が本市より重視されていると強く感じた。